

## ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 千葉市大会申し合わせ事項 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

## &lt;&lt; 大会参加について &gt;&gt;

1. チーム関係者及び応援の方も含め、会場入りする人は必ず**ネームプレート**を着用すること。
2. **第1試合開始30分前に事前打ち合わせ**をするので、**チーム責任者及び帯同審判の人は、それまでに会場入りすること**（予選、決勝トーナメント共）。
3. 試合開始予定時刻を15分過ぎても対戦相手が来ないときは、**不戦勝**とする。
4. **体育館の外へ出るときは、かならず外用の靴に履き替えること**（内外の区別をつける）。  
外でのアップは外用ボールを用意すること。
5. **試合中のフラッシュ撮影とコートサイドの応援席前列での一脚・三脚を使用してのビデオ撮影禁止**（カメラのみを手につか、大人が2階ギャラリーで撮影をする）。
6. **体育館2階ギャラリーから1階フロアに物を落とさないように各チームで注意をする。特に水筒等は持ち込まないこと**（保護者責任で管理）。
7. 会場でのゴミは必ず全部持ち帰ること《使用前より美しく！！を目標に》。
8. 駐車場には限りがあるので、各チームで工夫すること（各チーム4台程度）。  
また、チームOBを含む会場周辺での**路上駐車は厳禁**。
9. 千葉市バスケットボール協会、試合会場の学校関係者、及び会場責任者は、会場内（駐車場含）での車の事故や盗難等については、一切の責任を負いませんので、充分注意すること。
10. **会場内のコンセントを利用してのビデオ・携帯電話等の充電は絶対にしないこと**。
11. 会場内の備品等にさわったり、遊具で遊んだりしないようにすること。  
学校内の**立ち入り禁止場所や施設（花壇等）には近づかないこと**。
12. 会場内に駐車するときは、必ず**駐車証を掲示すること**（チームの台数がわかるように番号を入れる）。

## &lt;&lt; 試合・ベンチマナー &gt;&gt;

1. 試合時間：予選・決勝トーナメント共に各6分の4クォーター制とする（ハーフタイムは5分）。ただし、**新人大会予選リーグは、各5分の4クォーター制とする**。
2. メンバー登録については、第1、第3クォーターは審判が1分前を合図したら直ちに、第2、第4クォーターは前のクォーター終了直後に実施すること。
3. 同点で試合が終了したときは、2分後に1回3分間の延長を行う。3分間の延長を終わっても両チームの得点が同点ならば、第2延長を行う。以後、勝敗がつくまで延長を行う。
4. リーグ戦にて勝率が同じ（1勝1敗同士など。必ず勝敗を決めるので引き分けはない）場合は、当該チーム間のゴールアベレージで順位を決める（得点÷失点の高い方が勝ちとする、**会場報告書に詳細を記載してある**）。
5. 競技規則については、現行のミニバスケットボール競技規則を適用する。
6. **ベンチには登録メンバー15人とチーム関係者4人まで入ることができる**（全19人）。  
コーチは一度に一人であればゲーム中にベンチで立って指導できる。二人が同時に立ち続けることは認められない。
7. 試合ベンチは、TO席に向かって右側が淡いユニフォームのチームとする。  
対戦表の左側、または上段のチーム（若い番号）が、TOに向かって右側とし、淡いユニフォームを着用する。

8. 監督は、責任を持ってベンチ及び応援席を把握する。ベンチサイドには19人以外は立ち入り禁止。応援席のトラブル（ゲーム中の罵声や妨害、審判に対するクレーム等）については絶対に起こらないよう、普段から保護者に指導しておくこと。
9. メガフォン、応援用の鳴り物は、ベンチに持ち込めない（うちわをたたくのもダメ）。
10. 指導者は子供の模範となるようにする。「子供に威圧感を与えるような言動」「ゲーム中にコート内に入る行為」「モラルに反する行為」は厳に慎むこと。

## << 審判・T O >>

1. 審判は、予選リーグ・決勝トーナメントとも各チーム帯同を原則とする。  
なお、決勝トーナメント（大会2日目）の最終試合は公認審判を配当する。
2. 大会に出場するにあたり、選手がT Oをできるようにしておくこと。
3. T Oの後ろには必ずルールがわかる大人が立ち、子供達が間違えていないかチェックすること。

## 申し合わせ事項に関する補足

### 1. 準備

- (1) ユニフォーム  
濃色及び淡色の2色を用意。ユニフォームの規定は「JBAユニフォーム規則」に準じる
- (2) 救急セット  
必需品。大会開催中の怪我等は、各チームで対応すること。
- (3) 試合球の用意→空気圧に注意。未使用のボールは避けること。
- (4) その他の身につけるもの  
その他の身につけるものについては「JBAユニフォーム規則」に準じる
- (5) ベンチでのスコアシートは、T Oの練習の一環として、極力子どもが記入するように心がける  
(試合中のトラブルもあるのでアシスタントコーチは、よくチェックすること)。

### 2. 試合

- (1) 帯同審判  
県大会予選、決勝トーナメントについても帯同審判は必ず用意すること。  
※大会組み合わせ表の審判及びT Oの割り当て表にて進行 → 試合が終わっても必ず確認。
- (2) 時間について  
審判及びT Oの呼びかけにも関わらず集合しない場合は、任意にタイムアウトをとっているとみなされる。最悪の場合、指導者のテクニカルファウルとなる場合もある。
- (3) 登録人数について  
U10については1～4年生、その他は1～6年生の登録が可能。市外大会への推薦を伴う大会では、JBAへのチーム登録と選手登録が必要。人数規定については、県の考え方と合わせる。大会エントリー時点の登録人数が9人もしくは8人のチームは、登録メンバー全員が揃えば参加可能。10人以上で登録のチームは、当日も10人以上いれば参加可能。また、登録人数が7人になった場合は、オープン参加としての試合を認める（記録20-0）  
※上記いずれの場合も、同一選手が第3Qまでに続けて3Q出場する事は認められない。

### 3. その他

(1) TOを4人で出来るように取り組もう。

①タイマー → 時間が止まっているときは、しっかりと手を上げる。

②ショットクロックオペレーター → 継続・リセット・クリアの判断を確実に。

③スコアラー・アシスタントスコアラー → シュートをした選手・ファウルをした選手の確認。  
オルタネイティング・ポジションの矢印の確認。

(例)

| コート            |      |            |             |
|----------------|------|------------|-------------|
| テーブル           |      |            |             |
| ショットクロックオペレーター | タイマー | スコアラー(オルタ) | アシスタントスコアラー |

(2) ◎監督の責任 → 以上の事柄等に関し、バスケットボールにおいては、基本的に監督が全て(応援の保護者も含め)を把握すること。